

今日のトピック 最近の指標から見るインド経済（2017年2月）

落ちついたインフレと景気回復で株式、債券ともに好調か？

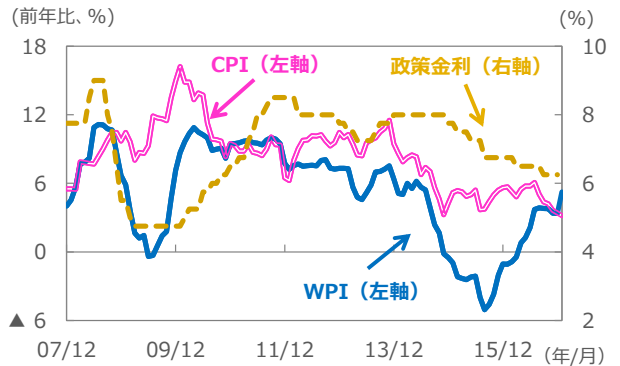
ポイント1 **CPI上昇率は更に鈍化**
野菜価格の低下が寄与

- 2017年1月の消費者物価指数（CPI）の前年比は+3.2%で6カ月連続で低下しました。野菜インフレが前年比 ▲ 15.6%と、前月の同 ▲ 14.6%からマイナス幅が拡大したことが主な要因です。
- 一方、卸売物価指数（WPI）は前年比+5.2%と前月の同+3.4%から加速しました。燃料・電力関連の上昇が主な要因です。原油価格が現状水準で推移すれば、燃料・電力からの押し上げ圧力は徐々に弱まる見込みです。

ポイント2 **乗用車販売台数が急回復**
2016年10～12月が景気の底か

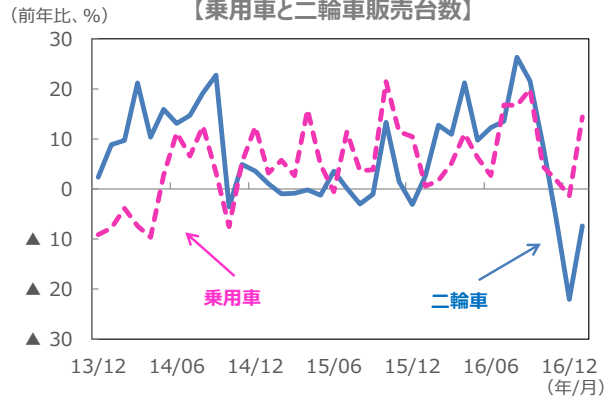
- 2017年1月のインド国内乗用車販売台数は、26万5320台で、前年比+14.4%と、前月の同 ▲ 1.4%から大きく持ち直しました。二輪車販売台数も、同 ▲ 7.4%と2016年12月の同 ▲ 22.0%からマイナス幅が縮小しました。
- 高額紙幣廃止・新紙幣交換による景気下振れは2016年10～12月が底であるとの見方を裏付ける内容だと考えます。

【消費者物価指数(CPI)と卸売物価指数(WPI)】



(注) データ期間は、2007年12月から2017年1月。
(出所) CEICのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【乗用車と二輪車販売台数】



(注) データ期間は、2013年12月から2017年1月。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 **落ちついたインフレと景気回復で株式、債券ともに好調か？**

- 以上のように、インドでは落ちついたインフレのもと、景気が回復していくと見られます。これに伴い、企業業績も回復する見込みです。こういった局面では、より高い収益率を期待した資金が、株式に流入すると見られます。
- また、インド準備銀行（中央銀行）の利下げ見送りで調整した債券市場は落ち着きを取り戻しつつあります。海外からの資金流入にも支えられた通貨安定と魅力的な金利水準により今後は債券市場へも資金流入が見込まれます。

ここもチェック! 2017年2月9日 **インドの金融政策（2017年2月）**
2017年2月3日 **インドの2017年度予算案**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。